

劣化するゼネコンの現場監理能力

建設政策研究所関西支所理事 鈴木堂司

「見出し・文責は編集部」

ゼネコンの現場監理能力の低下、事故の多発、下請へのしわ寄せについてですが、現場監理能力の低下の要因として、現場の1人あたりの職員の負担が増加しています。2011年に震災があって、2012年の建設投資額が45・3兆円から2016年度の52・5兆円まで約16%増額しています。それに伴って、スーパーゼネコンの場合はこの5年間で平均売り上げが1・05兆円から1・18兆円へと約13%

下請の職員にゼネコンの制服

それに対して大手5社の臨時職員も含む従業員数は、2012年度に1社あたり9200人だったのが2016年度には93000人ということになります。売り上げが10%増えているなかで、臨時職員を含めて1・1%しか、スーパーゼネコンで増えていない。準大手では4・9%増ということ、職員1人当たりの売り上げ

が増えています。準大手でも売り上げが15・6%増えています。ほぼ建設投資額の増加に見合ったような形で売り上げが増えています。下請の職員にゼネコンの職員を着させて、ゼネコンの職員だということをやっている会社も結構ありますので実態がつかみにくいところもあります。震災復興のスーパーゼネコンの現場で、スーパーゼネコンの社員が1人もいない、いるのは下請の職長クラスがいるだけ、この人たちが現場を切り回している実態がありました。そういうふうにいわれる下請任せというような現場がけっこう多いので、それが現場監理能力の

追回しは派遣職員で 極端に少ない30代正社員

もう一つ、ゼネコン職員の年齢構成ですが、団塊の世代が定年退職していく中で、次の大きな山をバブル世代が形成しています。これが今、45歳から50歳で管理職層を形成しています。バブル崩壊後の「失われた20年」は採用を低

く抑えてきましたので、現場の追回しをする30代が極端に少ない。超大型の高速道路建設工事の土木現場で管理職が12人、現場の社員が6人、派遣が9人という状況で、他のスーパーゼネコンの現場でも似たり寄ったりです。現場の追回しは派遣職員に頼らざるを得ません。

「お前らで後始末しろ」

3月の新国立競技場の過労自殺。6月に渋谷駅東口再開発の現場で鉄骨の落下です。たまたま通行人はいませんが、たまたま歩道に落下しました。8月には東京会館のエレベーターのピットへの転落で3人が亡くなった。それから関西の例ですが、2016年から2017年にかけて、大阪府から兵庫県の新名神高速道路建設現場で事故が多発しています。最初に去年の4月、橋かけたが落ちて、テレビでも大きく出ました。10人が死傷、下の国道は不通になりました。これにNECCO西日本はカンカンに怒りまして、再発防止のために全工区の無期限現場停止を徹底して再発防



新国立競技場の現場

現場の測量から追回しをやって、材料・労務の手配をやって、現場の進捗状況を把握してということが中心の業務でしたが、工事の規模が大きくなると、下請との契約を工事ごとにすることに、現場監理を含めた一括契約をします。協力会社の職員が現場監理をあわせてやるようになった。ゼネコンの職員は何をやるのかというと、職長を集めて現場運営の調整業務をやるのが中心になっています。現場トラブルの時、特に若い職員が口をしますが、「一括して下請と契約している。責任施工だから、お前らで後始末しろ」という職員が増えています。いわゆるゼネコンの責任逃れです。大成の新国立競技場の超過勤務を誰も把握してない、似たり寄ったりの現場があります。

アベ暴走政治ノー一票を投じたい

塗装 諸星 武司
アベ首相は、9月28日、「国難突破解散」と銘打って衆議院を解散しました。首相は、少数高齡化と北朝鮮情勢を、国難と取って付けたような理由付けをしています。これは、アベ首相の行政手腕の至らなさが原因です。まさに、身から出た錆以外の何物でもありません。さらに国難の時を機能不全にする神経、総理の資格などありません。嘘、ごまかしてしらを切る不誠実な人物に、政治的信頼などできません。さらに、アベ首相は、日本を戦争する国に押し進めています。憲法違反の集団的自衛権行使容認を閣議決定し、安保法制、共謀罪法の強行など、これほど憲法をないがしろにした首相はいません。そして、「森友、加計疑惑」と国政私物化という、最悪の暴走政治の口封じのような、解散・総選挙に憤りを禁じえません。強い怒りをもって、アベ暴走政治ノーの一票を投じたいと思います。(多摩・稲城)



署名の協力を呼びかける

大工 新妻 操
一枚の、一筆の署名は国を動かす大きな「力」となっていることを理解してください。分会執行委員会で書類配布される時に、毎月のように署名用紙が群ごとに配られますが、署名一筆の協力を心からお願します。俺一人ぐらい書かなくても誰かが書くでしょう」ではな

馬(同銀)同銀成(1玉) 2(銀打)1(玉) 1(三桂成)まで13手詰。
詰将棋の解答
1(金)2(玉)3(竜) 同玉 4(銀)2(玉)3(三)



調布のオリンピック関連施設現場で退場する労働者にアンケートを取る東京土建の仲間

本支店の権限が強大に 管理職は書類作成に忙殺

それからゼネコンの社内書類の増加というのがあります。これも昔は、ゼネコンは現場が金を稼ぐ場だ、現場の力に現場の所長が非常にかつた。だから責任

と権限はほとんど各現場の所長が持っていました。ところが時代の進展とともに、各ゼネコンとも現場の力が大きくなり、儲かる現場、儲からない現場とばらばらになるので、本支店の力が非常に強くなってきました。現場の所長の権限をどんどん奪っていき。

大きな現場で 重大事故続発
大きな事故を取り上げます。今年の1月に関電の高浜原発で113mの大型クレーンが強風で倒れました。マニュアルもあったようですが、どんな監理をしていたのしょうか。クレーンを倒すのは重大災害の一つです。それから

現場の測量から追回しをやって、材料・労務の手配をやって、現場の進捗状況を把握してということが中心の業務でしたが、工事の規模が大きくなると、下請との契約を工事ごとにすることに、現場監理を含めた一括契約をします。協力会社の職員が現場監理をあわせてやるようになった。ゼネコンの職員は何をやるのかというと、職長を集めて現場運営の調整業務をやるのが中心になっています。現場トラブルの時、特に若い職員が口をしますが、「一括して下請と契約している。責任施工だから、お前らで後始末しろ」という職員が増えています。いわゆるゼネコンの責任逃れです。大成の新国立競技場の超過勤務を誰も把握してない、似たり寄ったりの現場があります。